

土壌汚染

安全で質の高いボーリング調査を求めて

座談会出席者

(順不同)

光洋土質調査会長
エコプローブ協会会長

遠藤 計氏

えんどう・はかる

城東地質社長

高橋 渉氏

たかはし・わたる

ジオ・フロント社長

清水 祐之氏

たかしみず・ひろゆき

総研基礎社長

今井 禎宏氏

いまい・さだひろ

エヌケー新土木研究所社長

中村 健太郎氏

なかむら・けんたろう

エイテック社長

岡田 宏氏

おかだ・ひろし

司会 環境新聞編集部
名古屋 悟



左から岡田、高橋、中村、遠藤、今井、清水の各氏

協会で現場マニュアル策定

遠藤氏

高清水氏 B F 絡み対応困難に

土壌汚染対策法(土対法)の施行後、拡大し続けている土壌汚染ビジネス。こうした中、土壌汚染調査も毎年拡大傾向にある。汚染調査の最前線に活躍する企業は、今の状況をどう感じ、今後をどのように考えているのか。また、現場ではどのようなことが課題となり、どのような改善が求められ、必要とされているのか。土壌汚染調査用ボーリングマシン「エコプローブ」(東亜利根ボーリング・ユイザー)が、同機械を使った調査の技術向上などを目指して設立した「エコプローブ協会」(以下、協会)の理事6名に出席頂き、協会の取り組みや今後の展開をめぐって話を聞いた。

司会 まず、土壌調査に携わられた経緯や現状、今後の展望について各社に聞きたい。

高清水 地質調査業を営んでいたことから土壌汚染調査には入りやすかったもののほか、今まで生産第一主義だった社会が、環境に目を向け出し、そうした中で土対法ができた。過去の経験も踏まえ、これからは土壌環境の時代だという経営判断で土壌汚染調査に取り組み始めた。今現在は、その土壌汚染調査が主な業務になっている。

今後の展開については、土壌汚染調査だけでなく、浄化に向けたアドバンス、地元工場などへの啓発活動なども進めていきたい。弊社は東京下町にある関係から周辺には小さな事業場が数多く存在する。国でも課題として挙げられているブラウンフィールド(BE)問題なども今後懸念されている通り、小さな事業場は土壌汚染への対応が一層難しくなっているだろう。こうした問題を弊社も一緒に考えていければと思っている。

今井 弊社も地質調査業からスタートし、土壌汚染調査に取り組み、七、八年が経過した。当初は土壌汚染に社会的な目が向けられていない状況の中、土壌汚染とは何かを考えながら、現場で施工し、取り組んできた。こうした中で、土壌汚染調査用のエコプローブ

のようなボーリング機器が出てきて、それが協会にも発展しているが、いつかは減少に転じている。無償ではない仕事の中で、技術の伴った良い仕事とは何かを常に考えながら現場を手掛けるよう心がけている。気が付かなければ、いい加減な仕事でも済んでしまうかもしれない。協会では、技術の向上を目指した活動を進めている。ある程度、皆のレベルを一定にしたいという趣旨だ。弊社としても持っている技術やノウハウがあれば出し惜しみせずに応えるべき。元請け会社から協会の会員企業に頼めば全国どこでも同じレベルの仕事をしてもらえるという評価を頂ける努力をしなければならない。

遠藤 土壌汚染調査に取り組んだ一九九五年以降、土壌汚染の仕事が増え続けた。最初は、地質

調査が九割だったものが、今では土壌汚染調査が九割、地質調査・その他が一割と大きく様変わりした。

土壌汚染に特化し、現在は土壌汚染調査に携わったことで潤っているが、この先、どのような状況になるのかは不透明だ。今、社会的にも話題になりつつあるBF問題に該当するような案件もすべて対策の対象となるような制度的な転換があれば、ビジネスとしては先の見通しが長くなる。しかし、そうした転換がないのであれば、いずれ従来の地質調査に戻らなければならない場合もあると思う。

協会としては、会員に対して「誰が作業しても同じ品質である」と評価されるために基礎的な技術や情報をまとめ、発表してきた。また、コスト削減に向けて機材・資材の調達先の共有なども進めたいとは思っている。

今、同じ仕事をしながら地方との格差を強く感じる。土壌汚染に対する意識の薄い地方と東京を始めたという関東地方では大きく異なる。例えば、マニフェストがなければ土を捨てられないという話をする。ある地方の業者ではなくても捨てる必要がある。

行政の指導体系も異なる中で、それを統一していくことは難しい部分もあると思うが、格差を是正していくことが課題だと考えている。



遠藤氏

制度含め見直しも

中村氏

中村 皆さんと同様に地質調査を行ってきたが、公共事業の削減、民間での単価の下落が進み、経営が困難になることが予想された。人材を育成し、仕事も増え、順調に成長しており、今では土壌汚染調査が全体の九割を占めるに至った。

中村 六年前に土壌汚染調査に出合った。簡易ボーリング機械を扱うSSCネットワークに入会し、翌年にはエコプローブを導入した。人材を育成し、仕事も増え、順調に成長しており、今では土壌汚染調査が全体の九割を占めるに至った。

中村 六年前に土壌汚染調査に出合った。簡易ボーリング機械を扱うSSCネットワークに入会し、翌年にはエコプローブを導入した。人材を育成し、仕事も増え、順調に成長しており、今では土壌汚染調査が全体の九割を占めるに至った。

中村 六年前に土壌汚染調査に出合った。簡易ボーリング機械を扱うSSCネットワークに入会し、翌年にはエコプローブを導入した。人材を育成し、仕事も増え、順調に成長しており、今では土壌汚染調査が全体の九割を占めるに至った。

地域格差は埋められる

岡田氏

岡田 このメンバー中で最も土壌汚染調査の歴史が浅い会社で、四年目に入ったばかり。同様に地質調査が主たる企業で歴史的には四五年目を迎えた。かつて、約九割が公共事業主体の元請けとして地元・広島県の受注を進めてきた。しかし、公共事業の発注量が激減し、立ち行かなくなり、新たな展開を考えざるを得なくなった。その中で民間を対象にする仕事と、これからの時代で環境は外せないテーマであることが結び付き、更に自らの技術を生かせることから土壌汚染調査に行き着いた。

岡田 このメンバー中で最も土壌汚染調査の歴史が浅い会社で、四年目に入ったばかり。同様に地質調査が主たる企業で歴史的には四五年目を迎えた。かつて、約九割が公共事業主体の元請けとして地元・広島県の受注を進めてきた。しかし、公共事業の発注量が激減し、立ち行かなくなり、新たな展開を考えざるを得なくなった。その中で民間を対象にする仕事と、これからの時代で環境は外せないテーマであることが結び付き、更に自らの技術を生かせることから土壌汚染調査に行き着いた。

岡田 このメンバー中で最も土壌汚染調査の歴史が浅い会社で、四年目に入ったばかり。同様に地質調査が主たる企業で歴史的には四五年目を迎えた。かつて、約九割が公共事業主体の元請けとして地元・広島県の受注を進めてきた。しかし、公共事業の発注量が激減し、立ち行かなくなり、新たな展開を考えざるを得なくなった。その中で民間を対象にする仕事と、これからの時代で環境は外せないテーマであることが結び付き、更に自らの技術を生かせることから土壌汚染調査に行き着いた。

岡田 このメンバー中で最も土壌汚染調査の歴史が浅い会社で、四年目に入ったばかり。同様に地質調査が主たる企業で歴史的には四五年目を迎えた。かつて、約九割が公共事業主体の元請けとして地元・広島県の受注を進めてきた。しかし、公共事業の発注量が激減し、立ち行かなくなり、新たな展開を考えざるを得なくなった。その中で民間を対象にする仕事と、これからの時代で環境は外せないテーマであることが結び付き、更に自らの技術を生かせることから土壌汚染調査に行き着いた。

岡田 このメンバー中で最も土壌汚染調査の歴史が浅い会社で、四年目に入ったばかり。同様に地質調査が主たる企業で歴史的には四五年目を迎えた。かつて、約九割が公共事業主体の元請けとして地元・広島県の受注を進めてきた。しかし、公共事業の発注量が激減し、立ち行かなくなり、新たな展開を考えざるを得なくなった。その中で民間を対象にする仕事と、これからの時代で環境は外せないテーマであることが結び付き、更に自らの技術を生かせることから土壌汚染調査に行き着いた。

岡田 このメンバー中で最も土壌汚染調査の歴史が浅い会社で、四年目に入ったばかり。同様に地質調査が主たる企業で歴史的には四五年目を迎えた。かつて、約九割が公共事業主体の元請けとして地元・広島県の受注を進めてきた。しかし、公共事業の発注量が激減し、立ち行かなくなり、新たな展開を考えざるを得なくなった。その中で民間を対象にする仕事と、これからの時代で環境は外せないテーマであることが結び付き、更に自らの技術を生かせることから土壌汚染調査に行き着いた。

エコプローブ協会員は、高品質で安全な汚染調査を提供します!

本協会は、土壌汚染調査におけるサンプリング技術および工事の質的向上だけでなく、作業の安全に対する認識の統一と次世代の技術者の育成を目標として活動しております。

- 安全施工マニュアル、工法パンフレット・ホームページの作成
- 施工技術の開発や特許の取得
- 宣伝及び普及
- 施工技術情報の交換

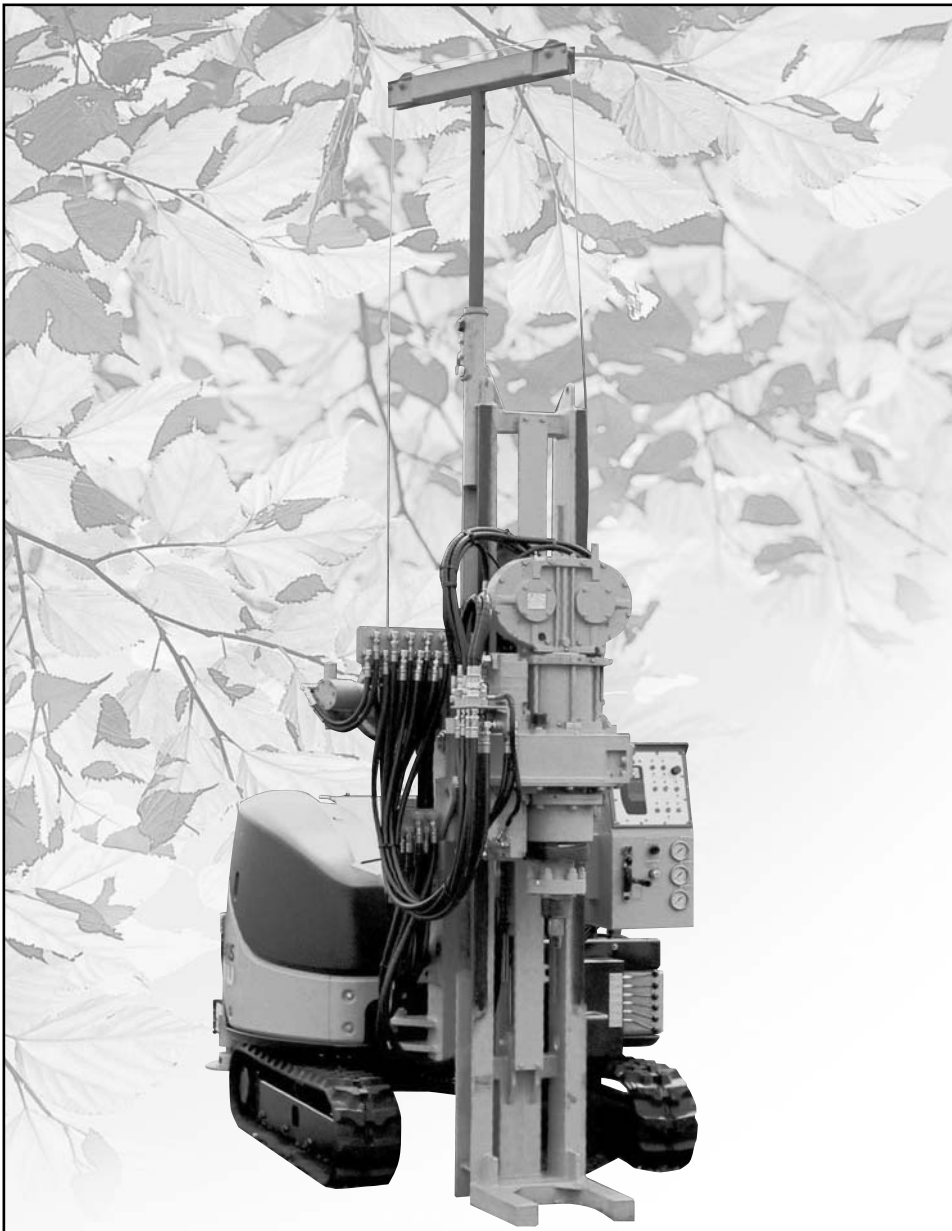
活動内容

エコプローブ協会

Eco-Probe Association (EPA)

エコプローブ協会加盟リスト

◆北海道地区 (株)安住ボーリング	磐城ボーリング工業(株) (株)エヌケー新土木研究所 (有)コーエー地質調査事務所 光洋土質調査(株) 久喜鋼管工業(有) (株)彩地下テクノ (有)澤田ボーリング (株)サンケン試錫コンサルタント ジオ・フロント(株)	ジオラフター(株) 城東地質(株) 伸光エンジニアリング(株) (有)総研基礎 (株)創和 (株)地質環境エンジニアリング (株)東亜利根ボーリング (株)中村ボーリング (株)萩原ボーリング	(株)横浜技研 吉沢原動機(株) ◆中部・近畿地区 クオリティハウジングチェック(株) (有)栗元地質 東邦地水(株) (株)レック中部 ◆中国・四国地区 (株)エイテック	山陽建設工業(株) 大成技研(株) (株)藤井基礎設計事務所 (株)北和 ◆九州・沖縄地区 (株)セウテック 藤永地建(株)
----------------------	--	--	--	--



〒106-8552 東京都港区六本木7-3-7
TEL 03-5775-3939 FAX 03-5775-3967
URL : <http://eco-probe.jp>

